

# 魚病と養魚技術指導

後藤悦郎

隠岐島を除く県内の病魚の診断、治療と養魚に関する技術の指導を行なったので報告する。病魚の診断は養殖場巡回時又は業者からの搬入時に行ったが、その結果は表1のとおりであった。

表1 魚病診断同定結果

魚病 魚種	わたか ぶり病	エビス ティリス 症	ウオジ ラミ症	イカリ ムシ症	白点 病	キロド ネラ症	トリコ ダイナ 症	ヘキサ ミタ症	カラム ナリス 病	せっそ う病	ビブリ オ病	その他	合計
コイ・フナ	3	1	2	1	1	1	1					2	12
アユ	1										3		4
マス類					2			2	2	2		5	13
スッポン												2	2
ヒラメ					1								1
アワビ												1	1
合計	4	1	2	1	4	1	1	2	2	2	3	10	33

## ○コイ・フナ

マス類に次いで件数が多かったが、寄生虫症がほとんどでそれによる斃死被害は少なかった。ただ、羽須美村で春から夏にかけて1kg程度の黒ゴイの斃死が続き合計約3トンの大被害があった。直接の原因は不明であるが、鰓に砂泥が付着し腫れていた。利用している河川は継続的に改修工事が行われており飼育水が相当濁っていたことが影響を及ぼしたのではないかとと思われる。なお、0.5%食塩水の長時間浴で治療を試みたが効果は無かった。

## ○アユ

放流用種苗生産、中間育成過程で発生するビブリオ病が主体であった。被害量が数百万尾(500kg)に達したケースが1件あったがオキシリン酸の投与により治癒した。

## ○マス類

魚病診断依頼件数が最も多かった。被害量の大きかったものはヤマメの5月のせっそう病と8月の白点病で前者は平均体重50gのものが2000尾、後者は平均体重50gのものが3000尾斃死した。

## ○スッポン

2件とも春先に発生しているので越冬期間中の体力消耗、衰弱によるのではないかとと思われる。

## ○ヒラメ

陸上池で養殖しているので白点病が発生しやすい。注水量の増加とホルマリン浴で治癒した。

○アワビ

毎年5月頃の稚貝に発生、波板への付着力が弱くなり脱落、斃死する。今年は被害率は2%程度と少なかった。

各魚貝類養殖場を巡回、養殖方法、魚病等に関する指導、知識の普及を行った結果を表2に記した。

表2 養殖場巡回指導結果

場所	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
巡回場所		江津市 益田市 柿木村 三刀屋町 大田市	浜田市 益田市 羽須美村 大田市 頓原町 吉田村	安来市 金城町 吉田村		浜田市 赤来町 吉田村 木次町	羽須美村	頓原町 美保関町 浜田市 石見町 大田市		江津市 羽須美村 頓原町	出雲市 江津市 益田市	三刀屋町 瑞穂町 益田市 柿木村 匹見町 弥栄村 金城町	益田市
延べ対象人数		14	17	7	0	7	2	14	0	10	10	20	3名